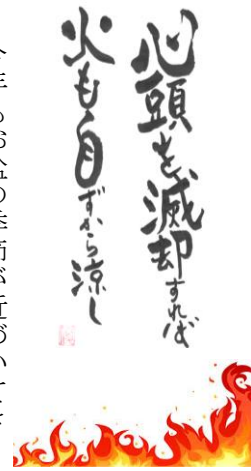




発行：玉琳山 天寧寺  
〒460-0018  
名古屋市中区門前町3-21  
TEL 052(321)5865  
FAX 052(324)8079  
メール tenmeiji@road.ocn.ne.jp  
郵便振替 00870-1-30614  
発行人：副住職 大野俊人



今年もお盆の季節が近づいてきました。梅雨が明ければ連日のように猛暑がやってきます。

猛暑の辛さを思い返すと、頭に浮かぶ禅語が「心頭を滅却すれば、火も自ずから涼し」です。これは、臨済宗の禅僧・快川紹喜が炎に包まれ落命する最後の瞬間に唱えた句だと言われています。

快川は戦国武将・武田信玄から篤く礼遇され、武田家の菩提寺・甲斐恵林寺の住職をつとめました。その最期は甲斐を攻めた織田信忠（信長の長男）により恵林寺は焼

き討ちに遭い、快川は山門の上へ逃げ集まった弟子たちに対して「この機に臨んでどう法輪を転ずるか、一句言ってみよ」と投げかけ、弟子たちはそれに応えます。そして、いよいよ炎が迫った中で、最後に快川が「安禅は必ずしも山水を須いず。心頭を滅却すれば、火も自ずから涼し」と唱えて、燃えさかる炎の中に身を投じたと言われています。

「心頭滅却」とは、心の働きを滅すること。心の働きを滅すると、心をなくす事ではなく心を整えること。自分自身の心を整えていくことによって、暑い時は暑さに徹して、自然と受け入れていくということ。そして、ここでいう火や暑さは、広義に捉えれば煩惱

と言い換えられます。煩惱は常にありますが、それをどう捉えていくのか、どう向き合っていくのかです。向き合うのは外側ではなく、内側の自分自身。自分の心と向き合い、心を整えていくことが大切です。

しかしながら、私たちはつい暑い暑さ寒さにばかり捉われてしまっています。自らに降りかかるものとを、あれやこれやと考えていると、苦が大きくなるばかりです。

空に浮かぶ雲のように、煩惱は次から次へと湧いてきます。夜空には明るい月が照らしているにもかかわらず、煩惱の雲を浮かべては、その光に照らされている事を忘れてしまいがちです。

今年の夏も、猛暑日の予報が少なくないでしょう。地球の温暖化はそう急には止まりません。ただ猛暑に腹を立て「暑い、暑い」と怒鳴り散らしても、気温は一向に下がりません。むしろ思い通りにならず、心は悶々として暑さに苛まれるばかりです。

心の中にいだけ悶々とした暑さ

を滅するスイッチは、わが心にあると言えます。もちろん、熱中症対策としてエアコンのスイッチもオンにすることもお忘れなく。猛暑日のなかにも心に清涼を感じられる夏を過ごしたいものです。

### 本来のお葬式の意味とは



人は親や身内の大切な方を亡くし、その無常や不条理さを縁として、初めて仏教の世界に目を向けられると思います。

言葉は良くないですが、他人様が亡くなられてもそれほど悲しくはないはず。それは善悪ではなく、残念ながら事実です。

死を見つめるとか、死を考えるというのは、言葉を変えて言えば、自分以外の方の死を自分の死として身近に引き寄せて考えていくことです。が、なかなか自分の死として引き寄せて考えられません。

お釈迦様はそれについて「四馬しばの譬ひ喩」というお話をされています。一番目の馬はムチが当たる前に影を見ただけで走り出す。二番目の馬はムチがちよつと毛に触れるくらいで走り出す。三番目の馬は普通にムチを当てると走り出す。そして、四番目の馬は骨の髄までムチが当たってやっと動き出す。一番目の馬は知らない人の死をまるで自分の死のごとく思える人。二番目の馬はちよつとでも知っている方の死をまるで自分の死のごとく思える人。人間は一番目、二番目の馬ほど優れてはいませんが、四番目の馬ほど愚かではない。ムチが当たって走り出す三番目の馬こそ、私たち人間なのです。

自分の死ではないけれど、自分の死のごとく思えて引き寄せることが出来るのが、身内の死であり、それがお葬式の時です。

人間は理論だけでは、頭で理解しても心で感じ取ることができません。心を震わせ感銘を受けるのは儀式によつてです。ですから大切な方の死と向き合うには、お葬式という儀式が大切なのです。

親の遺言通りにお葬式をしなかつたことにより、親の死を受け入れることができずにいる方のお話を聞いたことがあります。

お葬式をすることは、故人の死を受け入れるだけでなく、自分自身の命の大切さを知ることでもあります。死を見つめて、その方の死が自分にとつてどういう意味を持っているのか、その答えを出すのが、お通夜であり、お葬式です。

私たちは、ご先祖様や見えざる者との繋がりの中で生きており、それを考えることによつて成長します。生きる上で、死を学ぶことはとても大切なことです。死と向き合い、生きることへの感謝や喜びに気づく機会でもあります。

ご先祖様が何かしてくれただかということではなく、その方がいたからこそ、今ここに命を頂いているのです。私たちが生まれるには両親が必要です。その両親にもそれぞれ両親がいて十代さかのぼれば1024人。その中の一人でも欠ければ、私たちはこの世に存在すらしていません。ご先祖様や祖父母や両親が命のバトンを繋げて

くださったお陰であり、その感謝の形がお通夜やお葬式、年忌法要やお盆などの先祖供養なのです。

人は死ぬ時にこそ、自分で納得して死にたいわけです。納得するにはそれ相応の生き方が必要です。自分というものが本当に問題意識に上つてきたら、必ず解決を求めます。自分で苦しみ、時には勉強もし、時には修行もして「あ、これだ！」と自分で見つけてその道を行く。それこそが仏教の世界かもしれません。



しん ます  
**信の貧しきを恥はずべし**

大抵の人は貧ひんを厭いとい、富とみを望とみます。金銭や物に対する執着からは中々離れられません。命よりも大事とばかり、醜態しゅたいをさらしてまで物にしがみつくと人さえいます。

色しき・声しやう・香かう・味み・触そくの五欲ごよくがすべて悪いわけではありません。目で

見たもの、耳で聞いたもの、鼻で臭いを嗅いだもの、舌で味わうもの、身で触れるものにそれぞれ心地好いと思ひ愛着を起こし、生存する為の証として何ほどか必要ですが、際限さいげんもなく求める事は慎つしまなければなりません。「もつともつと」という欲望から無理が生じます。五官ごかんの均衡きんこうが崩れると、いわゆる五蓋ごがいが湧わきます。心は本来、清浄しやうじやうな仏心ぶつしんなのですが、五つの蓋ふたが覆おおいかぶさつてきます。

第一だいいちは食欲じよくです。無性に欲ほしがり蓋ふたになつてしまつていきます。

第二は怒りです。気に入らないことに腹を立て、本来の心の妨げとなります。

第三には、昏沈こんしん睡眠すいみんといつて、心が重く暗くなつて沈んでしまうこと。だるくてやる気が無くなり眠くなつたりします。

第四には掉挙じやうこといつて、心が高ぶつて落ち着かなくなることです。そして第五には疑いぎです。自分が信じられなくなります。

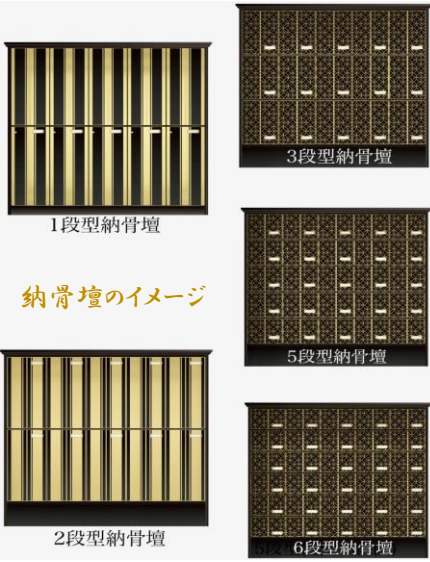


我欲に迷うと知足の楽しみを識ることもなくなり、旅先や山の頂上を急ぐ余り、道端に咲く美しい花に目もくれず、脚下の危うさをも気づかないようでは、ゆとりある人生の道行きとは言えません。焦らずに着実に向上の一路を歩みたいものです。

### 客殿・納骨堂新築工事

新築工事中の客殿と納骨堂は、建物の外装はほぼ完成し、現在の内装の工事をしております。

道路側のグレーの建物が納骨堂で、入口から段差なく入ることができ、車イス対応のトイレ、エレベーターもあります。2階には京仏師 長田晴鳳氏制作の白い釈迦如



納骨堂のイメージ



納骨堂完成イメージ



客殿完成イメージ



来座像をお祀りし、両脇に黒と金色の豪華なデザインの一・二段型納骨壇。その他に三・五・六段型納骨壇は七宝紋柄の和モダンなデザインです。内部も和モダンなデザインの仏壇型納骨壇です。それぞれに仏様・おりん・常花・電気ロウソク、線香・位牌・お写真などがお祀りできます。今年の十月に完成予定です。詳細はホームページでお知らせします。



大本山總持寺 大祖堂

### 施食会の心

供養を差し上げるといふ意味が隠されています。そして無縁の精霊が安らかになることを念ずることにより、その功德が有縁の精霊にも及ぶという意味で、お盆に特に施食会が営まれるようになりました。

私たちは、生命を保つために、様々な生き物の命を犠牲にしています。お盆ではご先祖様だけでなく、全ての生きとし生くるものの命に対しても供養します。また、全ての人が救われることを願う縁者が無い無縁様にも供養します。施食棚中央に「三界萬霊等」という位牌があります。これは無縁様やこの世の全ての生命あるものの霊に対する位牌です。施食会では、無縁の精霊に飲み物や食べ物をお供養する法要と、皆様方のご先祖様など有縁の精霊に供養する二つの法要を行います。本来、施食会の意味は、普段供養を受けない方々に皆が心をひとつにして

無縁の精霊と申ししても、全くの無縁ではありません。皆様の遠い親戚かもしれません。両親や祖父母が生前にお世話になった方かもしれません。ですから無縁様にも手を合わせ「皆ともに安らかでありますように」とお参りいただくことは、ご先祖様にとっても大きな功德にもなりますし、皆様自身も功德をいただくこととなります。自らのもつ食いの心を反省し、全てのいただいた命に感謝し、亡き人だけでなく、無縁の精霊にも手を合わせ感謝の言葉が自然にでる。これこそが施食会の心の表れなのです。



天寧寺 施食会

# お盆の準備



## 精霊棚(盆棚)

お盆にお迎えするご先祖様に休んでいただくための特別な場所です。まず仏壇の掃除をし、仏壇の前に五如来幡(五色幡)を吊り下げ、ご先祖様の位牌を全て横一列に並び、仏飯、茶湯器にお茶又は水を入れてお供えします。仏壇前に机を置きマコモや白布を敷きます。キュウリの馬とナスの牛。水の子(洗米とナス・キュウリをさいの目に切り混ぜたもの)や水向けの水、夏野菜、果物、素麺、ホオズキなどのお花をお供えします。

## お盆の献立の一例

- 一日目(十三日)
  - (朝)お霊膳
  - (昼)お迎え団子・お水
- 二日目(十四日)
  - (朝)お霊膳
  - (昼)おはぎ・そうめん・お水
- 三日目(十五日)
  - (朝)お霊膳
  - (昼)お団子・お水

## 御霊膳(霊供膳)

お盆や命日にお膳をお供えます。飯

碗(ご飯)・汁碗

(味噌汁)・壺碗(煮豆類)・平碗(煮物類)・高皿(和え物・漬物)

箸を仏様の方に向け、精進物とし肉や魚や匂いの強い野菜(ネギやニラやニンニク)はお供えしません。

## 迎え火と送り火

十三日の夕方に、玄関先で先祖様を迎える火を焚き、あの世から戻ってくるよきの目印として。十五日の夜にあの世へ迷わず帰れるようにと願い送り火を焚きます。

## 平和公園 天寧寺霊苑が

荒らされています



最近、野良猫やカラスによって墓地が荒らされています。原因は平和公園の各所で、毎日エサをあげる方がいて、その結果、野良猫が墓地に住みつきフンをして、カラスが集まる場所になっています。カラスにエサを与える方が来る夕方には天寧寺霊苑周辺の電線には2、30羽ほどのカラスが集まってきます。そのカラスによつ



て花や花筒、ロウソク立て、線香立てが抜かれたり割られたりしています。特にステンレス製の物は太陽光でキラッと光り狙われます。ちよくちよくお墓に出かけて花筒などを元の位置に戻し、割られた湯飲みなどは処分しています。

野良猫のフン被害は、数年前に墓地全体に砂利を撒きましたので少なくなり、カラスによる被害はエサを与えないよう墓地周辺に警告看板を設置したところ被害が少なくなりました。今後も行政と相談しながら対策をしていきます。

## 令和六年 行事予定

- 八月十一日(日)山の日
    - お盆墓経 午前8時〜午後1時
    - 永代供養墓合同供養 午後1時〜
  - 八月十七日(土)午後1時〜
    - 施食会(天寧寺 本堂)
  - 九月十六日(月)敬老の日 午後1時〜
    - 永代経(天寧寺本堂)
    - 永代供養(申込者の合同供養です。永代供養墓に納骨されている方の供養ではございません)
  - 九月二十二日(日)秋分の日
    - 秋彼岸会墓経 午前8時〜午後1時
    - 永代供養墓合同供養 午後1時〜
  - 十二月十五日(日)午前9時〜午後2時半
    - 三宝大荒神 大祭(天寧寺 三宝殿)
- \*天寧寺霊苑 永代供養墓合同供養  
 午後1時00分 合祀墓  
 午後1時15分 個別墓  
 午後1時30分 樹木葬

## 浄財寄進者御芳名

- 金 三十万円 岩田 東殿
- 金 五万円 伊藤和美殿
- 金 五万円 野田 俊殿
- 金 二万円 横田理沙殿
- 金 一万円 加藤幹典殿 早川輝一殿

天寧寺では、檀信徒はもとより、一般の多くの方々より浄財の寄附、仏具等の奉納を受け付けております。

尚現在、客殿 納骨堂建設中につき、浄財は工事代金に当てさせていただきます。

寄附振込先:郵便振替 00870-1-30614 宗教法人 天寧寺

## 名古屋市千種区 平和公園内 天寧寺霊苑

## 永代供養墓

樹木葬 2霊 55万円



お好みの色の石プレートに、家紋や絵や文字を彫刻できます。個別区画で春・夏・秋の年3回合同供養。最終納骨後17回忌経過しましたらハナミズキの樹木の下へ合祀。その後も永代供養します。

1霊 25万円 合祀墓



個別墓 2霊 68万円



◎天寧寺霊苑 新規墓地区画 使用者募集中です